

11月16日 第7日目

政治大学プログラム最終日。

午前中は「日常生活の小さな違いから民族性の差を垣間見る」という題で、言語学を専門にされている葉先生から講義を受けた。本日は特別に先生の下で勉強している政治大学の学生8人も同席し、講義の合間に彼らとの交流を深めることもできた。

冒頭には2年五十嵐・1年吉田班による、空き家を活用したコミュニティスペースの設立を軸としたローカルなコミュニティの再構築に関する提案が。アニメーションの細部まで凝って作られたスライドをもとに、前日同様高水準のデリバリーが展開された。ただしよくよくその後の講義を聞いてみると、個人の独立性が強い台湾では、そもそもローカルな共同体自体の存在が希薄であるという。だからこそ新たな共助モデルとして提案可能なのかもしれないが、こういった日本にはなかなか掴みきれない肌感覚を直接学ぶことができるということが海外FWを行うことの意義なのだろうと思う。

そこから葉先生の講義へ。先生の専門は前述のとおり言語学であるが、ある集団の思考・ふるまいは、母語の特性により強く影響づけられるという「サピア=ウォーフ仮説」なるものに基づいて、形を重んじる日本（語）とそうでない台湾（中国語）という二分法から、両者の衣食住の特徴の由来を見事に説明し切っていた。先生自身が東北大学で学位を取得し、日本・日本語に精通しているだけあって、説明は非常に明快で、生徒たちは大いに知的好奇心を刺激されていた。

そして最後に全体の締めくくりとして2年昆・1年沼崎班による、6次産業化やテクノロジーを活用したワークライフバランス実現の可能性に関するプレゼンテーション。

特に2年生の昆は、一切原稿を見ずに流暢な英語で伝えきり、日本ではややたどたどしいところもあった沼崎も、負けじと食らいついていた。プログラムのまとめとなる堂々としたプレゼンテーションであった。

この午前をもって、政治大学の先生方による講義と本校生徒によるプレゼンテーションの部は終了となり、午後はコーディネーターを務めていただいた二人の女性の職員の方と、フェアウェルティーパーティーへ。

会場はバスとロープウェーを乗り継いで小1時間ほどかけて行った猫空というエリア。山地の寒冷な気候を利用して栽培されているお茶が有名で、山頂周辺には多くの茶寮が点在している。そこで昼食兼お茶会を。

二人のコーディネーターの方には、本当に丁寧な対応をしていただいた。特に見た目も中身もパワフルな方は、政治大学に勤める前はヨルダンでアラビア語を学び、難民キャンプでも働いていたという。（それ以前もウクライナやロシアなど各地を転々とされたそうである。）「そこではタフにならなきゃ生きていけないのよ。」そんな風におっしゃっていたのが印象的だった。「だから（世界のあちこちを渡り歩いてきた）私は、出会った子供たちにどンドン外に出ていきなさいと言っています。」そんな風に語るグローバルな背景を持つ彼女との出会いも、一つのこの旅の幸運だったのではないかと思う。

15日の研修も早7日が経過し、折り返しを迎える。そのタイミングで、本研修の要でもあるFWによいよ明日から突入。後半ではどんな出会いが待ち構えているのか楽しみである。

五十嵐・吉田班のプレゼン  
ジェスチャーも効果的でした



昆・沼崎班のプレゼン  
締めにふさわしい堂々たるものでした



本日の昼食。わんこそばのように途切れなく提供される中華料理たち



帰る頃には素敵な夜景に変わりつつあったロープウェーからの景観

